

香港杯 全日本大学 学生大使 英語プログラム開催

NPO 法人日本香港協会 副会長 広報委員長 藤澤 慶彦

去る1月19日(土)上記プログラム2018-2019が開催された。

主催：香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部
共催：ジャパン・ニュース
後援：外務省、文部科学省、読売新聞東京本社
協賛：キャセイパシフィック航空、香港貿易発展局、日本香港協会など6社

全国139人の応募者から予選を通過した大学生は15人で、この中から「学生大使」4人を選抜する。3つのテーマである①ビジネス②文化③観光の中から本人が選んで6分間のスピーチと3分間の質疑応答形式で行われた。

審査委員は法政大学ビジネススクール教授ケネス・ペクター氏、香港特別行政区政府駐東京経済部代表翁佩雯(Shirley YUNG)氏、香港政府観光局日本局長堀和典氏、読売新聞東京本社編集局英字新聞部次長奥村健一氏の4人であった。

優勝したのは立命館大学の児玉邦宏氏、久しぶりの男性勝者であった。テーマは“文化”で、タイトルは“Collaboration of culture in Hong Kong and Japan”。内容は共通の社会問題である高齢化と都市における近所付き合いの疎遠化に対して、学生が相互交流し、朝食の飲茶と早朝のラジオ体操の習慣を組み合わせる提案であった。準優勝は神戸市外国語大学の野村ニイナ氏だった。

上位入賞者に共通していることは、限ら

れた時間の中で、簡潔に目的と趣旨を説明していること、現実に実行可能な提案をしていることであった。

表彰式の前には前年優勝者である本田論美さんから、学生大使として香港に招かれて、日本香港の青年同士の絆促進に寄与した活動報告があった。

表彰式では上位4人にそれぞれカップと表彰状が手渡された。当会の原田会長からも4人に対して図書券が贈られた。彼らは今年も学生大使として2週間にわたり香港への研修旅行に招待されることになっている。

研修では香港経済貿易代表部のイベントや香港中文大学訪問などが含まれている。

このような活動の積み重ねが日本香港双方の経済発展のみならず、社会・文化交流に役立ち、ひいては香港を通じた日中関係の友好深化に繋がることを期待したい。



2019年5月発行(禁無断転載)

目次

香港杯 全日本大学 学生大使 英語プログラム開催.....	1	山形：全国連合会交流会・香港フォーラム2018に参加して.....	9
香港大学スタディツアー&立教大学香港特別プログラム.....	2	北海道：香港ビジネスセミナー、香港のつどい2019開催.....	10
香港・深圳大湾区ビジネスセミナー開催.....	3	宮城：2019春節セミナー&パーティー開催	
香港政府と香港貿易発展局が春節レセプション開催.....	4	香港で一般消費者向け観光セミナー開催.....	11
連合会・各協会便り		沖縄：春節・香港ビジネスセミナー2019 IN 沖縄開催	
東京：第18回NPO法人日本香港協会総会開催		東アジア沖縄国際交流大学サッカー大会開催 香港大学	
2019 CMMS 華人経営研究開講.....	5	チーム参加.....	12
関西：2019年総会とチャイニーズ・ニュー・イヤーズ・パーティー		広島：アジアインバウンドビジネスセミナー開催.....	13
大消費市場：香港の魅力、香港からアジアへ.....	6	新潟：2019年 春節セミナー&パーティー.....	14
中京：梅の季節に寄せて		高知：香港ファンが急増中!	
新年会員親睦会・名刺交換会開催.....	7	香港ツアー所感.....	15
九州：春節セミナー・パーティー2019.....	8		

香港大学スタディツアー&立教大学香港特別プログラム

NPO法人日本香港協会 理事 大庭 忠良

日本香港協会は香港の学生支援の一環として、日本の学生が香港を、香港の学生が日本を訪問し、文化交流を行うスタディツアーの支援取り組みを始めております。今回は、香港の大学生が日本の大学と企業を知る、という趣旨のスタディツアーに協力し、日本の企業、大学にご支援いただき、大学交流と企業見学を実現しました。また、同時期に、日本の立教大学から、香港への春の特別プログラムも実施されました。こちらは、香港大学での1週間にわたる特別プログラムの受講と、企業見学が行われました。今回はこの両方の取り組みをご報告いたします。

去る3月3日から9日までの7日間、香港大学のスタディツアーが東京で行われ、学生12名と教職員1名による企業見学と大学交流を実施しました。

香港大学は香港の公立大学で、アジア大学ランキングでは東大よりも上位に位置する世界的な名門校です。10の学部からなる大学であり、歴史も古い香港の伝統校として有名です。留学生も多く在籍しており、今回は理系、文系それぞれの学部より、留学生も含めた12名の学生が参加しました。参加した学生の大半が日本での就職を視野に入れており、大変熱心に企業見学に取り組んでいました。

リコージャパンを始めとする多くの企業にご協力いただき8企業の見学が実現いたしました。見学最終日の8日は、立教大学を訪問、香港の特別プログラムを受けている学生との相互報告会が、リコーのTV会議システムを用いて実施されました。香港からは立教大学と香港大学の学生合同グループ4グループの発表が行われ、東京の立教大学からは香港大学の学生が大学紹介のプレゼンテーションを行いました。午後には、リコージャパンの浜離宮事業所を訪問しました。ショールームでは、午前中に使用したTV会議システムや双方向通信可能なインタラクティブホワイトボードの使い勝手を実際に体験し、それらを用いた働き方改革の事例を、社員が実際に働く

オフィスで見学（LiveOffice）しました。

リコージャパン見学後は、日本香港協会主催のフェアウェルパーティが行われました。今ツアーで通訳を務めた早稲田大学大学院生、立教大学学生も参加し、大変賑やかな会となりました。多くの企業を訪問しましたが、どの見学の際にも無駄話をせず、熱心に見学しながら、ディスカッションでは闊達な意見交換をする様子が印象的でした。これを機に、少しでも日本に関心を持ち、そして愛着を持って、未来を担う若者同士が交流を続けていくきっかけになれば幸いです。

そして、同じ期間、香港では、立教大学の香港特別プログラムが実施されました。初めて行われる試みでしたが、立教大学が掲げるグローバルリーダーシップ育成に役立つ特別プログラムを香港大学が構築したものです。10名の立教大学学生と、12名の香港大学学生が参加し、グループで様々なプログラムに取り組みました。最終日には東京と中継をつないだ相互報告会にて、成果報告発表を行いました。

初めての香港、初めての海外、という学生もいた中、すべて英語で行われる講義を受講し、公共交通機関MTRを利用して見学先を訪問しました。講義と企業見学の合間をみて、香港大学の学生と合同で最終日の成果報告に向けてディスカッションを重ね資料をまとめる、という作業をこなしました。大変ハードな日程ではありましたが、文化や歴史の違う海外の学生とグループでワーキングする際に、如何に他者を巻き込み、またフォローし、グループのミッションを最大化するために役割を担うことができたかという点を意識しながら、活動を通してリーダーシップというものを身につけるといふ貴重な体験をしました。

初の試みとなる海外での特別プログラムでしたが、参加学生にとっては大変有意義で刺激的な体験となったようです。今後も更に多くの学生に同様の機会を作れるよう、当会も支援を続けていく所存です。



香港大学にて



フェアウェルパーティ

香港・深圳大湾区ビジネスセミナー開催

香港貿易発展局 東京事務所長／NPO法人日本香港協会 理事 伊東 正裕

香港貿易発展局は、深圳市駐日経済貿易代表事務所、NPO法人日本香港協会との共催で、「香港・深圳大湾区ビジネスセミナー」を静岡市（1月31日）と横浜市（2月1日）で開催しました。静岡市では静岡県国際経済振興会の、また横浜市では横浜企業経営支援財団の協力を得て、両市の海外ビジネス関係者を対象に告知をした結果、合わせて150名以上が参加する大きなセミナーとなりました。

本セミナーは、中国本土政府が推進する地域発展戦略「大湾区」構想（香港・マカオと広東省珠江デルタ沿岸の9都市＝深圳・広州・仏山・東莞・惠州・珠海・中山・江門・肇慶が対象）の概要や香港と広東省の最新経済状況を、香港貿易発展局と深圳市駐日経済貿易代表事務所の代表者から発信。また実際に日本と香港あるいは深圳との間でビジネスを展開している企業の代表からの実例を交えたプレゼンテーションの後、「『大湾区』の事業機会と成功への取り組み」と題したパネルディスカッションも実施。域内の発展状況と将来展望について分かり易く解説しました。

「大湾区」は、世界三大ベイエリアである、ニューヨーク湾、サンフランシスコ湾、東京湾に匹敵するような巨大広域経済圏を構築する中国の国家計画です。その構想の中核となるインフラ整備プロジェクトとして、香港―深圳経由広州の高速鉄道や香港―マカオ・珠海までの港珠澳大橋など、香港とマカオ、広東省沿岸部は「1時間生活圏」と称されるように、一体化が着実に進展しています。このような広域経済圏の出現は、珠江デルタ地区における、購買力を背景とした巨大マーケットの勃興と新たなビジネスチャンスの到来を意味しています。また、新たな動きとして、「大湾区」構想の中核をなす香港と深圳は、ともに企業のスタートアップを積極的に支援するプログラムを進めており、テクノロジーとイノベーションのセンターとしての機能を果たすことを中国本土政府から期待されています。「大湾区」は、全中国の僅か0.5%の面積、5%の人口を占めるに過ぎませんが、

GDPでは13%を占めるなど、中国経済の中で最も先進的な地域であり、香港・マカオを通じて国際社会にも繋がっています。

香港と深圳の代表機関がセミナーを共催するのは初めての試みでしたが、「大湾区」への販路開拓・製造拠点確保やパートナーシップ構築を考えている企業が多数来場され、大盛況のうちに幕を閉じました。香港貿易発展局とNPO法人日本香港協会では、今後も「大湾区」に関する情報発信を積極的に進めて参りますので、是非ご期待ください。

〈大湾区〉構成都市の経済規模

	GDP (10億HKD)	人口 (千人)	1人当たりGDP (千HKD)	商品貿易総額 (10億HKD)
香港	2,661.0	7,391.0	360	8,232.9
マカオ	394.4	653.0	608	85.0
深圳	2,591.6	12,528.0	213	3,235.3
広州	2,483.6	14,498.0	174	1,122.0
仏山	1,103.0	7,657.0	145	503.3
東莞	875.7	8,343.0	105	1,416.5
中山	398.5	3,260.0	122	298.2
珠海	296.2	1,765.0	172	345.4
惠州	422.4	4,777.0	92	394.6
江門	310.7	4,560.0	68	160.0
肇慶	254.2	4,115.0	62	41.3

出処：香港大公報 2019.2.19



香港政府と香港貿易発展局が春節レセプション開催

香港貿易発展局東京事務所 コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志



香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ならびに香港貿易発展局は2月14日、パレスホテル東京にて、中国の春節（旧正月）を祝う恒例のレセプションを開催いたしました。会場には香港と日本の交流に従事する関係者の方々、約450名にお集まりいただきました。冒頭では翁佩雯（シェーリー・ヨン）香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表と柴山昌彦文部科学大臣、三原朝彦日本香港友好議員連盟副会長からごあいさつがありました。

主催者およびご来賓の皆さまの記念撮影に続いてお食事とご歓談の時間となり、長く港日交流にかかわられてきた方々が旧交を温める姿や、初めて参加される方同士が主催者スタッフを通じてネットワーキングされる様子があちこちで見受けられました。宴もたけなわとなった中盤からは、香港から来日したウィンドパイプ・チャイニーズ・ミュージック・アンサンブルによる香港と日本それぞれで人気の高い曲目の演奏が加わり、宴は一層華やかさを増しました。

最初の演目である「步步高」は、広東音楽（粵曲）の発展に寄与した呂文成氏の代表作の一つで、中華圏で広

く愛されている名曲。続く「月亮代表我的心」はテレサ・テンさんのカバーで日本でも広く知られた定番のナンバー。続いてSMAPの「世界に一つだけの花」、松任谷由実さんの「春よ、来い」、ドラえもんの表題曲「夢をかなえてドラえもん」と、世代を超えて愛される名曲の数々が、美しい中国楽器の音色に乗って会場中に響きわたりました。

その後は恒例の獅子舞（ライオンダンス）による練り歩きが行われ、会場中の邪気を払いました。約15分間のライオンダンスに続いては、みなさまお待ちかねのラッキードローが行われ、パレスホテル東京からのデラックスルーム朝食付き1泊ペア宿泊券、香港航空、キャセイパシフィック航空それぞれからの香港往復ビジネスクラスペア航空券という豪華な賞品をめぐり、場内からは歓声とため息があがりました。

最後に朱耀昌（サイラス・チュー）香港貿易発展局日本首席代表が閉宴の辞を述べました。会場にはその後も名残を惜しむかのように多くの方々がお残りになり、楽しい会話に花を咲かせました。





NPO法人日本香港協会 理事 事務局長 新田 孝輝

第18回NPO法人日本香港協会総会開催

3月9日(土)15時から東京虎ノ門、霞が関ビル内の東海大学校友会館において第18回通常総会と懇親会が開催されました。原田会長の議長の下、菅沼副会長の開会宣言に続き、佐藤副会長から平成30年度の事業報告、藤澤副会長から平成31年度の事業計画案の説明が行われ、事務局からは決算報告と新年度の活動予算案の説明が行われました。役員の一部改選案も含め全議案とも全会一致で異議無く承認されました。

総会終了後、会員懇親会が同会場にて開催されました。会員及び理事会メンバーの他、広東語教室受講者の方やドラゴンボート参加者、更に高知日本香港協会からの参

加者も加わり、約40名の賑やかな懇親会となりました。年1回の会員同士の集いとあって和やかな雰囲気の下で、本年度活動に対するご提案等や会員同士の情報交換等も活発に行われ1時間半の懇親会があつと言う間に過ぎ、17時に懇親会は終了となりました。



NPO法人日本香港協会 理事 小川 英郎

2019 CMMS 華人経営研究開講

日本香港協会（東京）は昨年九段下の二松學舎大学と共催で、CMMSを3年ぶりに再開した。目的は社会教育の推進と学術文化の交流で、その対象は中堅ビジネスマンと中小企業の経営者であった。幸い各方面からの支援で20名強の受講生が集まり、好評裡に終了した。

今年は主幹事の大役が私に回ってきた。気が重い……しかしやらねばならぬ。

まず教授陣の獲得である。幸いこれは昨年の実績をベースに後述するようにすばらしい陣容を確保できた。次の問題は受講生の獲得である。これが難航する。

最初にパンフレットを配布して、これはと思う企業を紹介して貰い、アポイントを取って訪問する。先方は皆忙しいので簡潔に説明するが、「検討して返事する」はまだよい方で、殆どが「社内に中国講座の需要がない」「当分中国には進出しません」などと断られる。そこで当会の会長・副会長・理事を総動員して勧誘に当たっても

らった。嬉しいことに2人の理事は受講料自己負担で真っ先に申し込んでくれた。この勢いに期待したい。今年は学生割引も導入したので、二松學舎大学はじめ他の大学生にも応募して貰いたいと思っている。

開始時期も昨年は4月であったが、学生が応募し易い5月とした。やや期待が先行したが、今回新規に加えた講師陣・講義内容に少し触れてみる。

「理論編」の10講座は「国情」「儒教・道教」「兵法」「華人ネットワーク」の4つのパラダイムから構成されているが、今年は「道教」を加えたことが新しい充実ポイントだ。担当は協会のパートナー二松學舎大学の牧角悦子教授（文学部長）をお願いした。また「実践編」の10講座はCMMS史上初めて「親子揃って講師」が実現した。セブン-イレブンジャパンの萬歳教公顧問は常連の名講師だが、今年のご子息の萬歳寛之氏（早稲田大学教授）にも国際法の見地から講義頂く予定だ。その他、元金融庁審議官浦西友義氏も初登場である。

2019年の九段下はCMMSで熱い！



2018 CMMS開講式



関西日本香港協会 事務局

2019年総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

2月20日にヒルトン大阪で2019年度の総会を開催しました。31名が参加した総会では、戒田会長より今年もより充実した内容の事業を実施して会員増強による財務基盤強化を図りたいとの方針が述べ



ラテン音楽演奏で会を盛り上げた Los Amigos

られました。さらに、2名の新任理事就任、平成30年度の決算報告書、平成31年度予算案と事業計画が承認され、15名の役員で今年度の協会運営を行うことになりました。

ヒルトン大阪の大宴会場「金の間」で開催されたチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーは130名が参加し、今年も盛会でした。パーティーは戒田会長の挨拶で始まり、香港貿易発展局首席代表サイラス・チュー氏の歓迎挨拶、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の首席代表シェリー・ヨン氏の来賓挨拶に続いて、中華人民共和国駐大阪総領事館の領事孫淑強氏が乾杯の音頭をとられ、旧正月特別料理の会食に移りました。一昨年の春節セミナーで講演され香港から参加された楊さちこ氏（美容と健康の研究家、中医学博士）と昨年の文化部セミナー講師の佐野優子氏（女子バレーボール元全日本代表、ロンドンオリンピック銅メダリスト）が紹介され、会食中は仲の良い会員同志が活発に交流し大変楽しい雰囲気のパティーになりました。

アトラクションは2017年にベネズエラから来日し奈良県吉野に移住されて町の活性化と音楽活動をしているベドロ・ブリセニュー氏（ギタリスト）が結成した楽団「Los Amigos」のラテン音楽演奏を楽しみました。また、お楽しみのラッキードローでは、多くの会員企業から参加者の半分に当たる景品を提供していただき、特別賞のキャセイ航空提供の香港往復ペア航空券の抽選の際には場内が最高に盛り上がり、田中義次副会長の挨拶で閉会



女性に囲まれたイケメン独身 サミュエル・チェンHKTDC大阪事務所長

しました。閉会後も、田中副会長の粋な計らいで、独身イケメンのサムエル・チェン氏（香港貿易発展局大阪事務所長）を沢山の女性が囲む記念写真が撮られました。

大消費市場：香港の魅力、香港からアジアへ

2月20日にヒルトン大阪の「真珠の間」で133名が参加した春節セミナーを実施しました。

講演1：「国際化のパートナー：香港」

香港貿易発展局日本首席代表 サイラス・チュー氏

チュー氏は、香港・マカオと中国広東省9都市を結ぶ「大湾区」構想と発展の様子を豊富な資料で解説されました。急速に発展している「大湾区」の国際的イノベーション・科学技術センターとして香港に課された新たな役割、国際金融センターとしての香港、国際空運ハブとしての香港の重要性がますます増えており、香港でも多数の再開発プロジェクトが進展している現状と未来を詳しく説明されました。

講演2：「日本のブランド力を香港へ、そして世界へ」

日本真珠輸出組合専務理事 内海芳宏氏

内海氏は、2009年に日本真珠輸出組合の専務理事に就任され、日本の真珠を香港へ、そして世界へと広く展開した立役者の一人です。2017年の真珠輸出総額323億円に対し、香港向け輸出額が269億円に上り、実に80%以上を



講演中の内海講師

占めています。また、内海氏は、経済産業省ジャパンプランド育成事業、食都神戸協議会、鯖江眼鏡海外展開事業などのブランディング事業などを手掛け、ストラテジストとして多くの公職を持ち、幅広く海外展開産業のブランディング専門家として活躍中です。インバウンド景気ばかりが目されていますが、これから先のことを考えれば優れた日本製品のアウトバウンドに注力することが大事で、日本ブランド製品の模倣や、香港・中国そして世界へ向けた日本製品のプロモーションについて熱く語られ、有意義なセミナーとなりました。



内海講師と登壇した5人



中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

梅の季節に寄せて

この原稿を書いている季節はちょうど梅の開花時期。菅原道真が詠った「東風吹かばにほひをこせよ梅の花」の句にあるように、梅は芳香とともに目に鮮やかな色彩は季節の到来を知らせてくれる。

梅は落葉低木のバラ科の植物、原産地は中国だそうだが、今や日本の至るところでも観賞できる。桜とともに、梅もまた平安時代の歌詞に詠われるように季節感を感じさせる。

東海地方では梅の名所として名高い佐布里池（そうりいけ）や、小生の住まいの近隣にある平針JAの梅まつりなどへ、毎年足を運ぶことにしている。短い期間ではあるが、冬から春への移り変わりを楽しませてくれる季節の風物詩だ。

梅といえば、乾燥梅菓子の話梅（ワームイ）を連想する。台湾の台中に住む友人が言うには、話梅は甘味料を加えて甘酸っぱく仕上げ、ドライフルーツとして食すそうだ。日本人としては、酸っぱい梅干しのほうが口に合う。

香港の下町を散策するとよく見かける陳皮梅というのものもあるが、こちらは「すもも」とミカンの皮を干した陳皮とを一緒に漬けたもので、梅は入っていない。香港では陳皮を自身の魚料理の味付けに、アクセントとしてよく利用しているという。



新年会員親睦会・名刺交換会開催

去る2月13日に、商工会議所内の名商グリルにて新年会員親睦会・名刺交換会が開催された。この会は毎年、豊島会長が音頭を取り、内外メンバーとゲストを招いて開催している。

その日は夕方5時から「2018年度中京日本香港協会の年度事業報告・会計報告および監査調査報告」を開催。全理事の出席のもと審議を進め、承認を得た。

中京日本香港協会が設立された1990年から実に30年間、香港貿易発展局、日本香港協会全国連合会、他産業界より多大なる協力をいただいたおかげで成り立っており、当協会としてあらためて感謝申し上げたい。

参加者は個人メンバー56名、法人メンバー13社。今回、中華人民共和国駐名古屋総領事館より副領事リウ・エン氏、香港貿易発展局日本首席代表サイラス・チュー氏、大阪事務所長サミュエル・チェン氏、ほかゲストから挨拶、乾杯をいただいた。

最後にライオンダンスの賑やかさの中、ほぼ全員に当たる抽選会で会場が大盛り上がり。各理事、企業より寄付していただいた中で目玉ともいえるキャセイパシフィック航空から寄贈された航空券の抽選では会場の雰囲気が最高潮に達し、盛会のように終了。理事や関連企業等の協力により、無事に新年度の船出をすることができ、30年もの歴史の重さをしみじみ感じたのだった。



日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京） 電話 (03) 5210-5870

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜喜齋内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310

〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会

電話 (022) 226-7025
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-5 第三志ら梅ビル2階西
(株)Sola.com内

沖縄日本香港協会

電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会

電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会

電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 (愛宕商事株式会社内)

高知日本香港協会

電話 (088) 855-9570
〒780-0842 高知市追手筋2-6-9 大手門ビル3階西
株式会社オトル内

URL <http://www.jhks.gr.jp>



春節セミナー・パーティー2019

2月28日、毎年恒例の春節セミナー・パーティーが開催された。今年は例年どおり、セミナーがパネルディスカッション形式で行われた。テーマは「小規模事業主でもつかめる香港におけるサクセスモデル～食×香港進出×インバウンドで香港ドリームをつかむ女性たち～」。当協会ではこれまで「一带一路」や「大湾区」など、ビジネスを促進する上で不可欠な大きな枠組みをセミナーのテーマとしてきたが、今年は一人、一企業、もしくは一自治体が香港人の心を掴む成功ストーリーを会場に共有した。

昨年の7月に、九州の経済界が主導し、新華集團のジョナサン・チョイ会長の中国人民政治協商会議常務委員および広東・香港・マカオ大湾区主席就任祝賀会が盛大に行われた。チョイ会長の大湾区に関するセミナーを聴いた300人を超える参加者は、活力のある香港と、自分が、企業が、地域がどう関われるのか、期待を膨らませた事だろう。九州日本香港協会として香港と九州との繋がりを確実に発展させていくために、一人でも多くの人に期待を叶えるきっかけを感じてもらおうという思いが、今回のパネルディスカッションに結びついた。

コーディネーターを務めていただいたふくおか経済の田中記者はセミナー開催の直前に香港における福岡人を取材しており、今、香港との繋がりを深めるきっかけとなるのは一個人の行動にあると、パネリストの3名のサクセスストーリーを引き出した。パネリストは高知香港協会会長で、ハンバーガーショップを香港で2店舗経営する森本麻紀氏と、福岡県三井郡大刀洗町の役場から香港に野菜を持っていき野菜市を開催する先導を切る村田まみ課長、香港に長年住んだ経験から香港人の心を掴むインバウンド情報を知り尽くすブロッガー丸田奈美氏。こ



春節セミナー

の3名の女性が語る香港は、聴く人達の目の前に風景を広がらせ、自分だったら、という想像力をかき立てた。80分のパネルディスカッションの後には、香港貿易發展局の田中次長より香港進出へのサポートについて紹介があり、その場に参加した80名ほどが香港をより身近に感じた事だろう。

セミナー後のパーティーにて、登壇者への名刺交換にできた列がセミナーの成功を物語っている。今年の春節セミナーには、九州日本香港協会の会員外の方の参加が多く、新規入会者の獲得にもつながった。パーティーでは毎年恒例のラッキードローも行われ、会員企業の方々からご提供いただいた賞品を抽選に当たった参加者に持ち帰ってもらうなど、盛会に終わった。

九州日本香港協会では毎年、総会・会員交流会・春節セミナーにて講師をお呼びし、参加いただく方々に新たな香港の知識と繋がりを持ち帰ってもらう機会を設けている。今後も継続して、より多くの人々に喜んでもらえるよう、企画をしていきたい。



パネルディスカッション



会長挨拶 石原 進氏



株式会社クリエイイト礼文 長沢 侑

全国連合会交流会・香港フォーラム 2018に参加して

2018年12月に香港で開催された全国連合会交流会、香港フォーラム2018にはじめて参加させていただきました。山形日本香港協会からは、事務局である私と渡邊晃副会長（株式会社クリエイイト礼文代表取締役CEO）、会員の鈴木亮吉氏（株式会社ベストフーズ代表取締役社長）の3名が参加させていただきました。

全国連合会交流会では、日本全国各地の協会や全国連合会本部の方々と親睦を深めることができました。また、各協会の日頃の取り組みについて直接お話を聞きすることもできました。これからの当協会の運営に役立てていきたいと思っています。

また、香港フォーラムにも今回はじめて参加させてい



いただきました。アジアのハブとしての香港の役割をあらためて実感しました。

今回の香港訪問では貴重な学びを得ることができ、来年も是非参加させていただきたいと思っています。また、今回、当協会からの参加者は3名のみでしたが、他県の協会からは大勢の会員が参加されていましたので、今年の香港フォーラムには、他県の協会に負けな

う、当協会の会員も多く参加するように、今回の私の経験や学びを伝えていきたいと思っています。

また、全国連合会交流会の前日には、当協会の大沼みずほ会長の取り計らいにより、在香港日本国総領事館にて、新たに着任されたばかりの和田充広大使と面会することができ、非常に貴重な機会を持つことができました（大沼会長は、外務省専門調査員として香港総領事館に2年間赴任された経歴があります）。和田大使や吉池直樹領事と、山形県と香港とのビジネスを中心に闊達な意見交換を致しました。

今回は、私にとって約1年半ぶり2回目の香港訪問となりましたが、香港のエネルギーでスピード感のある魅力にあらためて圧倒されました。山形県と香港との繋がりという意味においては、近年では、県産品の輸出やインバウンドなど、山形から香港への発信という視点で語られることが圧倒的に多い状況があります。もちろん、県内企業にとって、香港への輸出やインバウンドを通じてのビジネス拡大ということは、重要な施策であることは間違いなく、県内企業のバックアップ活動は、当協会の重要な役割のひとつであります。しかし、本来の当協会の役割としては、山形の魅力を香港に発信するという一方通行ではなく、同時に香港の魅力を山形県の会員に発信していくという双方向の役割を担わなければならないと、今回の香港訪問で再確認した次第です。引き続き、当協会会員、全国連合会、全国の協会の方々のお力をお借りし、微力ながら尽力していきたいと思っています。





北海道日本香港協会 事務局

香港ビジネスセミナー、香港のつどい 2019 開催

北海道日本香港協会は、2月4日(月)に札幌グランドホテルにて「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2019」を開催しました。当日は吹雪が舞う悪天候の中にもかかわらず、多くの方々に参加いただきました。

◆香港ビジネスセミナー

セミナーでは、主催者である当協会の石井会長並びに、香港貿易発展局日本首席代表サイラス・チュー氏から挨拶をいただきました。続いて、講演の前半では香港貿易発展局マーケティング・マネージャー後藤亜希郎氏より「大湾区のイノベーション／サービスセンターとしての香港の役割」と題し、香港を中心とした大湾エリアにおける経済規模や包括的インフラ整備等による、香港でのビジネス展開の優位性について講演いただきました。

さらに後半では、株式会社オーシャン代表取締役の井上雅之氏から「香港を起点とした東アジアでの事業展開」と題し、ラーメン梅光軒の海外展開の実体体験や、他国とのデータ比較による店舗運営における香港の魅力などを講演いただきました。

参加者からは、「香港の今を具体的に知ることができた」「大湾区の特徴について初めて得る情報があった」「現地における生の温度感に触れることができた」「楽しみながら話を聞いた」など、多くの声をいただきました。

◆香港のつどい2019

セミナーに続いて、懇親会として「香港のつどい2019」を開催しました。まず主催者を代表して当協会の安斎副会長並びに、ビジネスセミナーに引続きサイラス日本首席代表より挨拶をいただきました。次に、来賓を代表して香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表

シェーリー・ヨン氏から日本語による挨拶をいただくとともに、乾杯の発声を経済産業省北海道経済産業局局長の牧野剛氏より頂戴しました。

会の中盤では、毎回好評いただいている札幌の男性コーラスグループ「ダンディ・フォー」によるミニコンサートを開催。セクシーでダンディなハーモニーを披露いただき、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。さらに、今年も多くの企業様より商品を提供いただき、人気のラッキードローを開催。特賞は、キャセイパシフィック航空会社様から提供いただいた「札幌-香港往復ペア航空券」で、抽選時には場内が大変盛り上がりしました。

最後は当協会の永島副会長の締め挨拶により、盛況のうちに会を終えることができました。

本つどいを通じて、今年も香港と北海道両関係者の方々に親睦を深めていただくことができました。北海道日本香港協会では、引き続き北海道と香港の文化・経済交流の発展に向けて、取り組んでいきます。



「香港のつどい」ラッキードローの様子



「香港ビジネスセミナー」井上社長の講演



宮城日本香港協会 事務局

2019春節セミナー&パーティー開催

2月13日(水) 2019春節セミナー&パーティーを、宮城県経済商工観光部長の吉田祐幸氏、仙台市経済局国際経済室長の佐藤克行氏、そして香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部首席代表のシェリー・ヨン氏を来賓に迎え、70名もの参加者を得て、盛大に開催することができました。

セミナーでは、挨拶を兼ねて「広東・香港・マカオ大湾区構想」について香港貿易発展局東京事務所長の伊東正裕氏からお話があった後、「アニメツーリズムとインバウンドの可能性」と題して、一般社団法人アニメツーリズム協会専務理事の鈴木則道氏から、約40分にわたって講演がありました。アニメ産業市場の成長や海外における日本アニメの熱狂的な人気、各業界が連携してのオールジャパンでのインバウンド誘致の可能性について、「聖地巡礼」の元祖でもあるアニメ『らき☆すた』の舞台になった鷲宮神社(埼玉県久喜市)には2017年の初詣に4年連続で47万人もの人が訪れたり、岐阜県高山市を舞台としたアニメ『氷菓』は年間21億円の経済波及効果が岐阜県内にあったりと、様々な事例を交えてお話がありました。

第2部はパーティーです。花を添えたのが演歌歌手ヨシヒデさんのミニコンサートです。新曲「東京わかれ雨」などをご披露いただき、歌詞の「東京」を「香港」に置き換えるなど、すばらしい歌声は勿論、軽妙なトークで会場を盛り上げていただきました。

香港で一般消費者向け観光セミナー開催

2月16日(土) 宮城県主催による観光セミナー「宮城で楽しむ桜鑑賞、グルメ、温泉」が、207名の参加者を得て、ホテル・ステージを会場に開催されました。古谷野観光課長の挨拶及び宮城の概要、アクセス方法、ツアー等についての紹介後、「宮城県吃、玩、歎」と題してフリーランスライター・ブロガーの小Q氏からお話があり、塩釜仲卸市場、宮城蔵王きつね村、松島町、南三陸町等の紹介がありました。続いて、「宮城の春～温泉旅館と桜を満喫～」と題して時音(ときね)の宿 湯主 一條の女将から宮城の温泉と桜の名所(西行戻しの松公園、涌谷城、一日千本桜等)の紹介がありました。終了後宮城の美味しいもの試食会があり、仙台牛の寿司、ホタテのバター醤油焼きなどが提供され、参加者の皆さんに宮城の味を堪能していただきました。



観光セミナーの会場風景



春節を迎えて皆さんうれしそうです



沖縄日本香港協会 事務局

春節・香港ビジネスセミナー2019 IN 沖縄 開催

平成31年3月8日(金)午後4時30分よりANAクラウンプラザ沖縄ハーバービュー、白鳳の間において沖縄日本香港協会と香港貿易発展局の共催による春節・香港ビジネスセミナー2019 IN 沖縄を開催。香港貿易発展局アドバイザーで、JETRO 輸出有望案件発掘支援専門家の山本雄彦氏をお招きした。

山本氏は商社マンとして長年にわたり海外との貿易実務に携わった経験を基に、貿易に関する様々な事業を立ち上げられた。今回のセミナーでは「まだまだチャンスが広がる海外インターネットビジネス 香港から始める商品の探し方・売り方のすすめ」と題して、ご講演いただいた。

山本氏は、「阪南大学の調査によれば、海外サイトを使った買い物の有無について質問したところ、中国69%、ドイツ67%、アメリカ52%に比べ日本は27%とまだまだこれから伸びる可能性がある」とEC(電子商取引)ビジネスの可能性を強調されました。アマゾン等の大手インターネット通販サイトのビジネスモデルを例に挙げ、「事業の立ち上げのコストが低いことや、多くの種類の商品を揃えることが魅力である」と話した。香港でECビジネスを成功させる点として①自らの強みを知る(ジャンルの決定)②商品を探す(リサーチの実施)③プラットフォーム選定(モール・決済方法等)④テストマーケティング(実践の開始)⑤現地交渉の実施(提携契約などの締結)を挙げ「これらの事項を一つ一つやっていけば、インターネットを利用したビジネスは難しくないと話した。「沖縄から飛行機で4時間以内の地域にソウル、北京、台北、香港、マニラ、ホーチミン等アジアの主要都市が数多く存在し、沖縄は20億人のマーケットの中心にあり、有利な点も多い。是非インターネットを活用してビジネスに取り組んで頂きたい」とご指摘いただいた。

その後の懇親会では、香港貿易発展局大阪事務所長の



春節セミナー

サミュエル・チェン氏が乾杯を兼ねて挨拶され、沖縄日本香港協会と香港貿易発展局との協力・連携強化を強調された。

その後、参加者は名刺交換や懇親を深めると共に、香港に関するビジネスの情報交換を行った。

東アジア沖縄国際交流大学サッカー大会開催 香港大学チーム参加

第8回東アジア沖縄国際交流大学サッカー大会が、平成31年3月4日から10日の日程で、沖縄国際大学で開催された。この大会はスポーツを通じて東アジア地域の将来を担う大学生の国際交流の一環として開催されるもので、将来この東アジア地域のリーダー及び、相互の国際交流に貢献できる人材育成につながることを期待しており、沖縄日本香港協会も協賛・協力を行った。

大会2日目の早朝こそ雨にあたり、肌寒さも残る中での試合ではあったが、ほとんど晴天が続き、8チームで行う試合が予定通り開催された。

香港からは、香港大学サッカーチームも参加し大会を盛り上げたが、香港大学チームの結果は7位となり来年に向けてリベンジを誓って大会を終えた。大会としては、沖縄国際大学が6連覇を成し遂げ、来年こそ連覇を阻止するチームが出てくるのが期待される。



春節パーティー参加者



香港大学サッカーチーム


広島日本香港協会 事務局 木村 将隆
**アジアインバウンドビジネスセミナー
開催**

日本を訪れた外国人観光客の数が平成30年に初めて3,000万人を突破し、広島県でも平成29年度の外国人観光客数は243万人と前年に比べ41万人増加し6年連続して過去最高を更新しています。特にアジア地域（香港・中国・台湾等）からの観光客が急増しており、ますますこれら地域を対象としたビジネスの重要性が増したことから、平成31年2月14日（木）、広島日本香港協会では公益財団法人ひろしま産業振興機構と共催し、「アジアインバウンドビジネスセミナー」を開催いたしました。

第1部では、香港角川有限公司総経理の太田友樹氏より「香港における訪日インバウンド情報の発信について」と題して、香港での訪日市場の動向や特色について、また、香港の方の気質や特性を知る事で、日本や広島に求める観光資源は何かをご紹介いただきました。さらに、香港メディアの立場から、各地域のプロモーション活動においてどのように日本を魅力的に紹介するか、「香港ウォーカー」の誌面づくりから得た経験をもとにご紹介いただきました。

ご講演の中では、香港の訪日旅行者は個人で訪日される方が多く、高いリピート率から訪日回数も多くなっており、さらに訪日してからの行動範囲も広く、レンタカー利用率も一番多いとのことや、香港の方がどういった考えや視点で日本や広島を見ているかを詳しく解説頂きました。一見、日本人なら特に気にすることもなく通り過ぎてしまう、道端にただひまわりが生えているような何気ない風景でも、近くの本風の家屋とも相まって、香港の方にとっては新鮮なものに映るそうです。それは、日々の忙しさから癒しを求め、昔の日本の原風景にあこがれを求めているからとのご紹介をいただきました。

実際「香港ウォーカー」の誌面づくりにおいては、日本人の編集ではなく香港現地の方に編集を任せることで売り上げアップにつながったとの事例も紹介され、日本人との視点の違いを意識することが重要と話されました。

このように、香港の方の特性や視点の違いを知ること

か、理解を深めることができました。

第2部では、訪日外国人向けウェブメディアを展開する株式会社MATCHA インバウンド戦略部統括マネー

ジャー、シーズンクラム・カオ氏より「日本の当たり前をとらえ直す！これからのインバウンド戦略」と題して、インバウンドの考え方をとらえ直すことでビジネスに繋がる戦略・立案の方法についてご紹介いただきました。

また、ご講演の中で、「日本のおいしいお米といえばどこの産地でしょうか？」という質問がありました。選択肢として、A日本産であればどこでも、B東京産、C魚沼産とあり、多くの参加者は、魚沼産を選択しました。なぜなら、魚沼産という「地名」や、おいしいという「情報」を知っていますから当然に選んでしまいます。ただし訪日外国人の方の目線からいうと、日本産であれば、もしくはオリンピックも行われ、日本で一番の都市である東京産を選んでしまうのが自然な選択になると考えられます。

また、一部の訪日外国人が箱根を訪れる目的として、温泉には入らず、黒卵（温泉卵）を食べると寿命が延びるといわれており、卵を食べるだけに来ていることも解説いただき、参加者の皆様も納得されていました。ここで大事なことは、訪日外国人の考えは、私たちが海外に行った時と同じ感覚であるということです。そのような意識と感覚を持ち、海外からの訪日客の皆様は何を考え、求めているかを考えることが、戦略・立案を立てる上で重要なポイントとなることを紹介されました。

このセミナーを通じ、参加者様より「インバウンドの対策について何から始めたら良いか分からなかったが、解決の糸口が見えた」また、「香港の最新の情報について詳しく理解することができた」、「インバウンドのビジネスを進めて行くうえでの戦略・立案において重要な事柄を一つ一つ自分に置き換えて考えてみたが、耳の痛い話がいくつもあり、反省する良い機会となった」と、両セミナーを通じ受け入れる側の体制づくりや、今まで、当たり前と思っていた考え方の発想を転換する良いきっかけになった等の感想が聞かれました。ご参加いただいた皆様には熱心に講演を聞いていただき、質疑応答の時には多くの方から質問や意見をいただくなど、インバウンドビジネスに対する熱い思いを強く感じることができたセミナーとなりました。今一度この場をお借りして、講師の方や、ご参加いただいた方に感謝申し上げます。

今年度においても、香港貿易発展局や、関係機関と連携し、皆様により良いビジネスサポートができるように努めてまいります。



太田友樹氏の講演



シーズンクラム・カオ氏の講演

NIIGATA

新潟日本香港協会



新潟日本香港協会 事務局長 田中 湖雄

2019年 春節セミナー&パーティー

平成31年2月26日に平成最後の新潟日本香港協会春節セミナー&パーティーがホテルオークラ新潟にて開催されました。香港貿易發展局からは日本首席代表のサイラス・チュー様、香港経済貿易代表部からは代表のトーマス・ウー様、そして中華人民共和国駐新潟総領事館総領事の孫大剛様が参加くださいました。

第一部の春節セミナーでは高知日本香港協会の会長であり、株式会社グラディア代表取締役社長の森本麻紀様より「地方（高知）から香港へいきなり行っちゃったハンバーガー屋おんな社長の話」というユニークな演題で講演いただきました。森本様は昨年2018年香港フォーラムにて「サクセスストーリーアワード」を受賞していらっしゃいます。お話の内容は高知が誇るご当地バーガー「龍馬バーガー」のお店を香港に出すまでの話を中心に、若い頃からの（今でもお若いのですが）ご苦労や努力を波乱万丈な人生とともにお話いただきました。更なる飛躍を祈念しております。

引き続きの春節パーティーも多くのゲストの方々や会員にて盛大に開催されました。

セミナーに先立ちまして来港いただいたサイラス・チュー様に地元紙新潟日報社よりインタビューがあり、その内容が朝刊に載りましたので以下その内容を記載します。

サイラス・チュー 香港科技大で経営修士を取得。1997年に香港貿易發展局に入局し、北京、上海、広州の各事務所勤務。総裁秘書室主任、台湾代表などを務め、2017年から現職。香港出身。



香港の対外貿易を促進する香港貿易發展局の朱耀昌・日本首席代表(44)が新潟日本香港協会のセミナーで来県し、新潟日報社の取材に応じた。朱氏は、香港には日本から宝石や日本酒などが多く輸出され、中国や世界各国にビジネスを展開する上で足掛かりとなる

香港貿易發展局 朱耀昌日本首席代表に聞く 県産米、酒の輸出に可能性 直行便開設へ働き掛けも

場所だと強調。新潟清酒や県産米の品質を高く評価し、新潟との直行便開設について「提案があれば協力し、民間航空会社に働き掛けることもあり得る」と前向きな姿勢を示した。2018年の香港からの訪日客数は約220万人に上る。朱氏は「約2割が10回以上訪日する」と語る。

以上の訪日経験があることと、本県のインバウンド(訪日誘客)拡大に向けて「香港で新潟は米どころと認識され、魅力がある。継続的なプロモーションが必要だ」と指摘。熊本県がPRキャラクターくまモンを生かしてアピールしている例を挙げ、「新潟もマーケティングや市場研究に力を入れてほしい」と戦略的な取り組みを求めた。

直行便について朱氏は、香港と日本の15都市との間には週450便ほどが往來しているとして競争の激しさを指摘。「直行便の必要性と、実現すればどんな効果をもたらすかを、新潟が官民で航空会社に伝えることが欠かせない」と語った。

中国の巨大経済圏構想「一帯一路」でも「香港の投資力は大きな役割を果たす。多くの国が関わる国際ビジネスのプラットフォーム(基盤)を担う」とした。

(3月1日付け新潟日報より)

また、グローバル経済において香港は金融の中心地の一つであり、企業にかかる税金が安くビジネスをしやすいと説明。「昨年は日本企業1390社が香港を拠点にビジネスを展開し、大企業だけでなく中小企業や起業家の活動も活発だ」と強調し、新潟など地方企業の進出を積極的に支援する考えを示した。



吉田会長の挨拶



森本会長の講演

(C)新潟日報社



高知日本香港協会 会長 森本 麻紀

香港ファンが急増中！

平成も終わり、新しい時代へと突入しました。平成という時代は日本にとって戦争もなく正に平和な時代であった一方で、情報戦争とも言えるほど、ビジネスにとっては情報の量もスピードも激流の時代だったと言えます。今後、海外ビジネスにおいてもその変化に益々対応していかなければなりません。そういった意味では、日本香港協会の存在は非常に心強く、特に我々高知県のような地方にとっては、香港はもとよりアジアの最新の情報やネットワークを身近におけるといふ事は、これからの展開において優位に立てるものだと改めて感じているところです。

昨年の10月11日に「東京も大阪もいい！でもアジアにはもっとチャンスがある！」と題し、香港貿易発展局大阪事務局長サミュエル・チェン氏を招いての講演は、参加者に大好評をいただきました。先日第2弾として、2019年2月27日に楊さちこ先生を講師に招き、春節セミナーin高知「世界のグルメを魅了する、香港の食文化

と習慣」と題したセミナーを開催しました。

今回も定員50名を超える参加者があり、楊先生に香港人の食に対する真摯な姿勢や考え方を中心にお話しいただき、その軽妙なトークは笑いあり学びありで非常に盛り上がり、セミナー後、約10名の入会希望者が現れるほどの好評ぶりでした。セミナー後の懇親会では、楊先生のご好意もあり、香港ツアー開催の折には現地であテンドをして頂けるのご提案も頂き、下記の通り高知の有志が集まり香港を訪れました。



春節セミナーin高知

高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

香港ツアー所感

香港をあまり知らない方々のためと、高知日本香港協会の会員を増強するために、「高知日本香港協会主催 香港ツアー第一弾」を森本会長引率のもと、3月10日から3泊4日で実施いたしました。

初めとなる今回は、総勢9名の参加で、香港の食の魅力である火鍋、飲茶、北京ダック、朝粥等を堪能し、参加者一同大満足。また酒造メーカー、美容関係の参加者は、現地での紹介から早速ビジネスマッチングができました。

3日目には、春節セミナーin高知でゲスト講師として来てくださった楊先生による、ディープな香港街市ツ

アーを実施し、湾仔マーケットでの視察、楊先生による香港の食文化の講義も受け、湾仔地区の議員さんとの名刺交換等、非常に有意義な実りのあるツアーとなりました。最終日の夜は、森本会長のお店「5019 PREMIUM FACTORY 香港」において、香港高知県人会との懇親会も開催、3泊4日の香港ツアーは大変実りのある企画になり、併せまして会員増強にも繋がりました。

次回は、6月初旬に第二弾を開催予定で、どんどんツアー参加者が増えている状況で、協会側としても大変嬉しく思っております。

高知では、香港ファンが急増しております。森本会長も率先して会員獲得に動いており、これからも会員はもとより、多くの方に情報をお届けし、アジアビジネスをより近いものとして捉えて頂けるよう活動をして参ります。



湾仔街市ツアーの様子



湾仔街市ツアーの様子



時を忘れて しまうような滞在…

2020年春、
ホテル アレクサンドラは、
ハーバープラザ ホテル&リゾートの新しいブランドとして、
利便性に優れた香港島のノースポイントにオープンいたします。
洗練されたフランスのネオクラシックとコンテンポラリーな要素、
時間を超越した贅沢なエレガンスとモダンな概念をみごとに
融合させた美しいデザイン ホテルです。

深紅とゴールドを基調とした豪華なロビー。
モダンな概念を優雅に調和させたビクトリア朝の建物です。

特別なイベントやミーティングに最適な調度品の
揃う豪華シャンデリアが灯るグランドルーム

多くの部屋からハーバービューを楽しめる快適な
840室のスイートやゲストルーム

デザイナーセレクトの家具や調度品の
揃う心地よいレストラン

眺めのよい屋外プールや設備の
整ったフィットネスセンターが揃っています。



HOTEL *Alexandra*

32 City Garden Road, North Point, Hong Kong
(MTR Fortress Hill Station, Exit B)

Tel: 852 2123 1863 Email: sales@hotelalexandrahk.com
www.hotelalexandrahk.com

東京事務所

Tel: 03-5413-5780 Email: rep.tokyo@harbour-plaza.com

A member of Harbour Plaza Hotels and Resorts

